

「モリイク」は、コープ未来の森づくり基金が、森と人、森づくりと人をつなぐ目的で発行している冊子です。

コープ未来の森づくり基金レポート

モリイク

MORI - IKU

森に行こう。
森で育とう。
森を、育てよう。

vol.11
Apr. 2016

編集後記

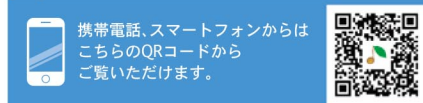
森が災害を軽減する機能を持っている、ということとは、実は江戸時代の昔から知られていて、その目的で森づくりも行われていました。いわゆる、災害防備林と呼ばれているもので、北海道内でも災害の軽減を目的とした植林事業などは例があります。こういった森の役割というのは、今まであまり注目されなかったものだと思います。

東日本大震災では、木立が津波の勢いを殺し、引き波によるがれきの流出を抑えたという報告があります。これを参考に、本格的に防災のための森づくりを行う動きも生まれました。森はもちろん防災に対して万能ではありませんが、人と森の古くからのつながりが見直されているということなのかもしれません。

すぐ隣にあって人の暮らしを守ってきた森、私たちとのつながりの深さをまたひとつ感じた編集作業でした。

あずもりfacebookページ

<https://www.facebook.com/coop.asumori>



モリイク vol.11
2016年4月発行
発行元/ コープ未来の森づくり基金

この冊子は環境に配慮してベジタブルオイルインクおよび100%再生紙を使用して作成しています。



人を育てる森、暮らしを守る森。

暮らしのそばにある森は
暮らしを守ってくれる森でも
あるのかもしれない。

つなぐ
COOP
SAPPORO

北海道のあしたの森を育てる
コープ未来の森づくり基金

コープ未来の森づくり基金は、組合員さんのノーレジ袋へのご協力で支えられています。

モリイイク

自然災害から暮らしをまもる、
そんな森づくりも
考えてみよう。

* contents *

- *02 コラム 森づくりのトレンド
未来のための市民による森づくり
- *04 特集 森づくりでわたしをまもる
河川愛護団体 リバーネット21ながめま
- *08 お客様の思いに応えるものづくり
工房宮地
- *09 もっと樹のことを語ろう
大きな木の小さな物語
- *10 親子で楽しむ森のページ
森のキモイ・キレイ
- *12 森林再生コラム
楽しくつきあうには、相手を知らない、ね
- *13 コープ未来の森づくり基金報告
第1回 コープの森育樹祭報告 など

Starting Column

森づくりのトレンド

あした 未来のための 市民による 森づくり

皆さんは水害防備林という言葉を知っていますか？ 文字通りこれは水害に備える森林なのですが、どのような機能を果たす森林と思われませんか？

近代以前の日本には、洪水を防ぐための大規模なダムをつくる技術はなく、高い堤防を張り巡らす工事を行うための機械力もありませんでした。人間の力で洪水を防げないために、人々は洪水をあたりまえのものとして許容しつつも、その被害を最小限にしようとする努力をしてきました。

昨年、鬼怒川の洪水の映像をご覧になった方も多いかと思いますが、堤防が壊れて一気

に水が流れ出すと被害がより一層大きくなります。昔の人は、洪水の被害を少なくするために、堤防にすき間を連続的に入れるなどして、河川の水かさが増えようと緩やかに水があふれるような仕組みを作りました。さらに、河川沿いに森をつくり、あふれてきた水の勢いを弱め、また水と一緒に流れてくる土砂を止める役割を果たすようにしました。これが水害防備林と呼ばれるものです。このようにして人々は洪水と「共存」して生活を行ってきたのです。

近代以降、洪水を起こさないようにダムをつくり、堤防を連続的につくる大規模な工事を行ってきました。このおかげで

洪水による被害は大きく減少してきました。一方で、河川の自然の姿は失われ、河川の生態系は劣化してきました。そうした中で水害防備林の役割も忘れられてきました。

さて、洪水を防ぐということでは、河川の上流部に広がる森林の役割も重要です。森林には洪水緩和機能があるといわれており、森林土壌へ雨水が浸透することにより、洪水となるまでの時間が長くなり、また洪水の流量も小さくなります。上流域の森林をきちんと保全・管理していくことが求められているのです。こうした機能は江戸時代にはすでに認識され、荒廃した森林を復元することで洪

水の被害をできるだけ少なくする努力が行われてきました。

一方で、森林の役割が過大評価されがち傾向もあります。脱ダムの議論のなかで、上流部の森林が人工林になって保水力が低下してしまったのではないか、昔のような天然林を復活させればダムはいらないのではないか、といった議論がありました。森林の保水力には限界があり、大量の水をためるダムのような機能をすべて森林に代替させることはできません。

こうして見てくると、洪水被害を防ぐことと自然豊かな河川をとり戻すことを両立させることは大変難しいことがわ

かります。洪水を完全に制御しようとするほど河川を人工物化してしまうのではないかと反省に立って、多少の洪水は起きうるものとして受容すべきではないか、受容できるような社会やインフラの仕組みを作るべきではないかといった議論があります。

洪水を防ぐ土木力がなかった時代では、上流の森林を保全して保水力を高め、それでも生じる洪水に対しては、苦肉の策として水害防備林で被害を低減させてきたといえます。現代人の目で見ると、河川をできるだけ被害は起こさない

ようにするために森林を役立てていたととらえることもできます。もちろん、昔のような堤防と水害防備林に戻していくというのは現実的ではありませんが、どこまで洪水をコンクリートで抑え込んでいくのか、自然豊かな河川と私たちの安全の生活のバランスをどのように考えていくのか、改めて考えるきっかけを与えてくれるのではないかと思います。

洪水と私たちの生活の関係を考えてみると、私たちが自然とどう付き合っていくのかということにたどり着きます。森林の役割も、こうした私たちと自然との大きな関わり合いの中で考えることが必要です。◆



柿澤 宏昭
(かきざわ ひろあき)

北海道大学
森林政策研究室 教授

コープ未来の森づくり基金 運営委員長

1959年神奈川県横浜市生まれ。北海道大学大学院農学研究科修士課程修了。現在、北海道大学農学部森林政策研究室教授。持続的な森林管理を多様な人々の協働で支えるしくみづくりをテーマに研究を行っている。また、欧米、ロシアなどの森林管理政策にも詳しい。主な著作に『エコシステムマネジメント』（築地書館）、2008年より「コープ未来の森づくり基金」運営委員長を務める。



森づくり DE わたしたしをも まもる

河川愛護団体
リバーネット21 ながぬま

私たちが川のつながりを大切にしたい。そして、災害で命を落とす人がいなくなるように。

「河川愛護団体リバーネット21ながぬま」は、その名の通り夕張郡長沼町を中心に活動をしている団体です。「河川愛護」とか「リバーネット」という名前のとおり、活動内容は川のことなのですが、特筆すべきはその活動コンセプトです。リバーネット21ながぬまの活動は、よくあるように「川と親しむ」ということではなく、「防災」を目的に行われているのです。

活動内容は、主に地域の子どもたちを対象とした川に関すること。川に出て、流れの

中を安全に歩いたり、上手に浮いて流れる練習をしたり、あるいは土嚢を作って積み上げる体験という、いざという時に役立つような防災訓練といったもの。そのほかに、川の環境を守るために河川敷のゴミ拾いをしたり、環境保全のための募金活動を行ったりしています。もちろん、森づくりのための植樹・育樹も。

でも、川の防災、という切り口だけなら、子どもたちには川はこわいもの、危険な場所というイメージがついてしまいうな

ものです。ところが、いつも活動に参加している子どもたちは「川は楽しい」「川が好き」と口々に言うのです。

それは、川は災害をもたらすだけの怖い存在ではなく、楽しい、そして大切な存在であるという側面も同じように大事に活動の中に取り入れられているからなのでしょう。

活動の舞台である長沼町は、今でこそ美しい田園風景が広がり、札幌近郊でも人気のドライブエリアのひとつです。しかし、千

歳川や夕張川の水系が入り乱れるこの地域は、開拓期から水害に悩まされてきました。だから、古くから住んでいる人にとっては、川は忌むべき存在だという人もいるのかもしれませんが。

リバーネット21ながぬまでは、水害について学び、その対処を知るというだけでなく、川で遊び、川の生き物と触れたり、川を豊かにする森を育てるために、木の種を採取して育てるなど、川をめぐる様々な楽しみも積極的に取り入れています。それだけでは

なく、冬にはお餅つきをするなど、みんなが集まり、交流する機会も大切にしています。

そうした背景もあり、活動にはいつも、参加者である子どもたちをはじめとして、保護者や地域のボランティアなど、様々な年齢層の人たちが集まります。中には高校生や大学生の姿も。かつて小学生だった頃に参加し、今は小さい子どもたちを面倒みる立場になっているとか。

川を知り、川を学び、そして川を守る。こうした取り組みは多くの共感と評価を得て、

空知信金産業文化振興基金のふるさとづくり奨励賞や日本水大賞の国土交通大臣賞、緑の少年団活動発表会での優良賞・会長賞、ほっかいどう地球温暖化防止貢献の森づくりコンクールボランティア部門の奨励賞など、たくさんの受賞歴という形となって社会に認知されるようになりました。

水害の多かったこの町で、防災はもちろん、川の楽しみまで大切にすることの活動、何が大切で、どのように未来につながっていくのか、話を聞きました。

木々づくり わたしたし を まもる

河川愛護団体
リバーネット21
ながぬま



長沼町とは、野幌丘陵と馬追丘陵に挟まれた低地に拓いた町。開拓期から旧夕張川の氾濫による水害が多発した。新夕張川の完成で水害は減ったものの、石狩川が増水した際に千歳川に水が逆流し、逃げ場を失った水による水害が発生するようになった。

長沼、水害の歴史

長沼町の歴史は水害の歴史。広く豊かに広がっている農村風景は、かつて海だった平野なのです。標高差の少ない土地を流れる川は、ちょっとした増水でも暴れ、開拓期から頻りに農地が水に洗われる被害を受けてきました。洪水が頻りに起こる夕張川を直線化し、河口を千歳川から石狩川につかえる大工事が行われ、いったん水害は治まったかに見えました。しかし、今度は石狩川の水が千歳川に流れ込んでしまうという、別の水害が発生します。

こうして開拓期から60回近い水害に見舞われ、多くの人々が亡くなり、そのたびに農作物がだめになって生活が困窮したのです。現在でも水害対策は続けられており、私

ちが目を楽しませる豊かな田園風景は、水害の歴史を乗り越えて作られた苦難の結晶でもあるのです。

水害をなくすために できること

昭和56年の大水害を最後に、水害の記憶は薄れつつあります。しかし、災害は忘れた頃にやってくる。2011年の東日本大震災でも、先人達が残した注意が十分に活かされることなく、津波の被害が甚大を極めたことは記憶に新しいところです。

水害の歴史を忘れてはならない、そして水害そのものが長沼からなくなるように。そんな思いから、山本隆幸さんが2年もの準備期間を費やして「河川愛護団体リバーネット21ながぬま」を設立したのは、2002

年のこと。活動内容は、ゴミ拾いや河畔への植樹などを行う河川環境の改善、水の危険を学ぶ子ども水防団など、川に関わるもの。

河川敷のゴミは川の流れを妨げてしまいます。一方、植樹によって育てる河畔林は氾濫した水の勢いを弱め、流れてくる流木や土砂などの障害物を留める働きをします。こうした河川環境を良くする活動に加え、子ども水防団では、水の中を安全に歩いたり、おぼれないように川に浮いたり、土嚢を作り、積み上げるなど、「自分の身は、自分で守る。水害で命を落とす人がいなくなるように」と、実際の水害を考えて活動内容を組み立てているとのこと。

もうひとつ大切にしているのは、自然を思う気持ちを育てること。川で遊んだり、川



の生き物を観察したり、子ども達が楽しく自然を体験する、ということも忘れません。「自然や森、川の偉大さをね、体験を通じて学んでほしいんだ」と山本さんが話すように、自然は災害の元であるだけではないのだ、ということも伝えていきます。

そのひとつが森づくりにも表現されています。植樹活動は水害の軽減のための河畔林の整備というしっかりした目的がありますが、山本さんはより自然の森林を目指して、そこに生態学的混播・混植法を取り入れています。「小鳥のさえずりが聞こえる森づくりって呼んでね、生き物がたくさん集まるような、楽しい森をつくりたい」と、植える苗についても地元の樹木から採取した種を子ども達と数年かけて育て、その苗を植樹しています。さらに、育樹もしっか

りやって、10年前の植樹地では、植えた木々はもう10mほどの高さに育っているとい

コミュニティがあるから、 未来につながる

います。ところで、リバーネット21ながぬまの活動には就学前から高校生、大人、お年寄りまで様々な年代の様々な人たちが集まります。10年以上続く活動に、当時小さな子どもだった高校生や大学生は、スタッフ側の役割を持って参加するようになり、学び、成長する子どもの姿を見ることがうれしいと話すお母さんもいます。こうした場合は、今ではあまり見られなくなってしまった、例えば町内会などの地域のコミュニティによく似ているように思えます。

この活動に「ゴールは、ないんだ。ずっと伝えていくことが使命だと思ってる」と、山本さんは胸に秘めた思いを語ります。多くの世代が集まるということは、活動が次の世代へと引き継がれることでもあるのでしょう。災害は忘れた頃にやってくる。長沼町の子供達は確かに水害を経験していません。しかし、世代から世代へと伝えることで、いつか次に起こるかもしれない災害に適切に対処できるでしょう。もちろん、森づくりも次世代に引き継ぐ活動です。

人から人、世代から世代へ。山本さんが植える木々は、災害の記憶と心構えとともに、きっと速く未来へ引き継がれていくに違いありません。

リバーネット21ながぬま 代表
山本 隆幸さん



生態学的 混播・混植法 って？

北海道科学大学の岡村俊邦教授が提唱する自然林の再生工法。樹木の根返りによって生じた裸地には、多くの樹種が芽吹き、競合して生長します。この過程を模した森づくりの手法で、自然林再生を目指した森づくりの場でも多く実践されています。



①なるべく地域にある樹から種を集めます。

②土づくりをして種を播きます。

③芽が出て大きくなったら植え替えて、大切に育てましょう。



④「裸地」を想定して地ごしらえした植樹地には直径3mほどの円を砂利でマルチングします。砂利は乾燥や雑草を防ぎます。

⑤砂利の円に色々な種類の樹を植えます。適した樹が大きく育っていきます。



⑥とはいえ、樹が育つまでには除草などの育樹も欠かせません。

⑥こうして初期の植樹地は、今では立派な河畔林に。



植える→育てる→使うことで保たれる森林。木を使うことも、森を守ることに繋がっている。



座った瞬間に腰と背中が「スッ」と伸び、いつまで座っていても疲れな。この驚きが忘れられません。そんな椅子を作るのが、宮地 鎮雄さん。東川町で「工房宮地」を開き、道産のクルミで椅子をメインとして家具を作っています。

愛知県で育ち、北海道に移住してきた宮地さんは、当初はカメラの販売店に勤めていました。しかし、以前からものづくりの仕事をしたいと考えていたこともあり、旭川の職業訓練校で木工を学び、この道に。家具会社で腕を磨いて独立し、「工房宮地」を東鷹栖に開いたのが1991年のこと。その後、1993年に東川町に移って椅子づくりを続けています。この間、品質の高い椅子づくりで各種の賞を受賞し、グッドデザイン(Gマーク)に選定されるなど、高い評価を得てきました。

宮地さんの椅子は何といても背もたれの心地よさが魅力。「椅子に座ったとき、背中には30%の体重がかかるといわれていて、だからこそ背中が当たりがよく、座ってもらって気持ちのいいもの、くつろげる椅子づくりを目指している」そうです。しかし、ものづくりへのこだわりについて伺うと、「こだわりは特に持っていない」との答え。理由は、宮地さんが向き合っているのは徹底的にお客さんだからです。お客さんと、もっとこういう椅子がほしい。こんなデザインはどうか。という話をするのがあって、そういう声に耳を傾けることが自分にとって大切なのだとか。だから、宮地さんは「お客様から教えてもらって椅子を作っている」と言います。その一つの例として、作家の三浦綾子さんがパーキンソン病で苦しんでいた頃に特注の椅子を作ったことがあり、それが元でパーキンソン病の患者さんのための椅子も作るようになったそうです。患者さんの症状や体のサイズは十人十色。だから一人一人に聞き取りをしてカルテ



工房宮地

www.13.plala.or.jp/kouboumiyajji/

人との対話から生まれるクルミの椅子。暮らしの質を高めるものづくり。



こだわりの背もたれは、全て手作業による仕上げ



クルミの表情が一つずつ違う。出荷を待つ椅子。

を作り、一脚ずつ作っている、いわば究極のパーソナルチェア。それでも、患者さんにとって本当によいものが作れているかどうかは怖いと言います。患者さんに関わらず、お客さんの生活の質を少しでも高めたいと願う、それほど真剣に相手と向き合っているのは立派なこだわりだと感じてしまいました。

さて、工房宮地は道産のクルミ材を使った家具づくりが特徴のひとつです。クルミ材を使うようになったのは、個人の小さな工房がやっていくための他との差別化の工夫だったそうですが、生活の中で使いやすい軽さと、やさしい手触りという魅力がクルミ材にはあるといえます。3年ほど前に道北の中川町から声がかかり、今では材の多くを中川町のクルミでまかっています。中川では立ち木の伐採から立ち会うこともでき、製材・乾燥までは知り合いの業者が行って、加工からお客さんに届くまでは宮地さん自身の仕事。こうして伐採から出荷まで、つまり、「川上から川下まで関わられるのは、ものづくりをする者として幸せだと思います」と話してくれました。

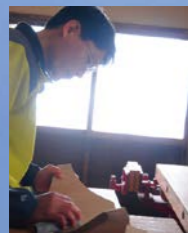
ところで、中川町のクルミ材は他の地域のものに比べて色が濃いそうです。たくさんのクルミを見ているからこそ気づいた宮地さんがそのことを色んな人に話すうちに、中川町・森林総合研究所・北海道大学と共同で調査が始まりました。DNAや土壌、地質など、様々な側面から調べ、そのメカニズムを明らかにしようという試みです。まだ調査は途中ですが、木というのはこうした新しい気づきを与えてくれるといえます。

生きていく上で大切な「創意や工夫、気づき」をもたらしてくれる「木」という存在は、宮地さんにとっても、そして私たちにとっても、大切な存在なのだと思います。🌱

工房宮地 中川町産クルミの家具展 2016

16 10.7(金)~10.13(木)

紀伊國屋書店札幌本店 2Fギャラリー
今年で6回目を迎える札幌での展示会です。「背中で座る」宮地さんの椅子をぜひご覧下さい。



工房宮地
宮地 鎮雄 さん
東川町在住の木工作家。座りやすさを追求した椅子をメインに制作活動を行う。中にはグッドデザイン選定の椅子もある。2013年から中川町のクルミ材を使用している。愛知県出身。



Column 植樹の図鑑 知っておこう。私たちが植える木にも物語がある。

大きな木の小さな物語

⑥ ケヤマハンノキ

川の近くにある樹林は河畔林、上流の溪流のそばにある樹林は溪畔林と呼ばれます。ケヤマハンノキは溪畔林の代表的な構成樹種です。

ケヤマハンノキは高さ20mほどになる落葉広葉樹です。溪流のほとりだけではなく、斜面の崩壊跡地のような痩せた土地にも真っ先に生えてきて、ときとして純林をつくります。

同じ仲間のハンノキはかつて赤楊と書きました。木を切ると白い小口が瞬間に赤くなります。何か酸化するらしく、これから白楊(ヤナギ)という字を当てたのだと思います。ケヤマハンノキも同様に小口が赤くなります。

ケヤマハンノキはカバノキ科に属していますが、マメ科植物と同じように、根が根粒菌と共生しています。根粒菌は空中の窒素を固定して樹木に供給するので成長が速く、葉に多くのチッ素を含むために、その落葉は土を肥沃にします。このため「肥料木」という名で荒廃した土地に植えられてきました。

春、まだ雪が残っているころから花を咲かせます。尾っぽのように垂れ下がっているのが雄花。雌花は紅褐色ですが4mmほどと小さく、よほど近寄って見ないとわかりません。

雌花が受粉すると秋には球果となります。マツボックリをぐっと小さくした形で、中には翼をもつタネがびっしり入っています。シラカンバなどのカンバ類のタネと似ています。比較的遠くまで飛びやすく、カンバ類・ヤナギ類と並び北海道の代表的な先駆性樹種の一つです。

芽生え、子葉のあとに出てくる本葉は、普通の樹木では2枚出ることが多いのですが、ケヤマハンノキは初めから互い違いに出るので、1枚しかありません。森の中でお目にかかる機会はめったにないかもしれませんが、これは…

ところでこのケヤマハンノキの花粉、花粉症の原因の一つになっています。まだ積雪があるうちから花粉を飛ばすので、シラカンバの花粉症よりも早く発症します。これが発行されるころには花粉が飛んでいます。症状をお持ちの方々、どうぞお気をつけ下さい。🌱



翼果 球果



雌花 雄花
芽生え
本葉 子葉
雌花

text/images 孫田 敏

‘54年山形県長井市生まれ。’77年北大農学部林学科卒業。林業、その後造園・緑化工事に従事。’90年から建設コンサルタント。緑化計画が専門。技術士(建設部門・建設環境)。’00年から北の里山の会代表。著書:アトリウムと植生(積雪寒冷地型アトリウムの計画と設計:絵内正道編著)、水辺林復元計画の基本的考え方と計画の進め方(水辺域管理—その理論・技術と実践—:砂防学会編)、森林管理と市民参加(北のランドスケープ 保全と創造:浅川昭一郎編著) WEBサイト「Scan Botanica」<http://scanbotanica00.sblo.jp>



参考文献 佐藤孝夫,2011,増補新版 北海道 樹木図鑑,345pp,亜細亜社 上原敬二,1961,樹木大図説1,1309pp,有明書房 北海道庁第二部殖民課,1891,北海道殖民地調査報告文,完405pp,1986復刻版,北海道出版企画センター 生原喜久雄,シリーズ自然を語る 樹木の個性を知る,生活を知る,ヤシヤシ 荒地での肥料木, 巻かれてくる,東芝 研究開発統括部技術企画室,http://elekitel.jp/dekitel/nature/2004/nt_24_yasha.htm,2016/01/31閲覧 森徳典,1991,北方落葉広葉樹のタネ—取り扱いと造林特性—,139pp,北方林業会 北海道薬剤師会公式サイト,花粉症の原因になる植物 http://www.doyaku.or.jp/health/hay_fever/kafun005.htm,2016/01/31閲覧 ※画像素材提供:雪印種苗株式会社(権柄)

木のキモイキレイ

のぞいてみたら何かがあるよ。
ちょっとキモくない？
よく見るとおもしろい！
さがしてみよう、木のいきもの。
ほら、いのちのふしぎにあふれてる。

森の中には、
ケモノや鳥、虫たちなどの
動物がすんでいます。
動物たちは食べてフンをするし、
命を終えた死がいもあるはず。
でも森はいつの間にか
キレイになっているよ。
だれが片付けて
いるのでしょうか。

だれがキレイにしているの？ 木のそうじ屋さん

草をいっぱい食べた
エゾシカがウンコをしたよ。
どうなるのかな？

ウンコが
土にかえる
まで...



センコガネの仲間
金属のようにキラキラしているコガネムシ。緑、赤、紫など体の色にも違いがある。動物のフンを食べ、メスは丸めたフンの中に産卵。幼虫もフンを食べる。体長14~20mmほど。

ガムシの仲間
ため池や川などの水辺で生きる種類(水生)と、湿り気のある動物のフンの中で生きる種類(陸生)がいる。体長5.5~7.5mmほど。

エンマムシの仲間
動物の死がい集まるので地獄の間魔(えんま)様にちなんだ名前をしているが、フンや死がいでではなく、そこにすんでいるウジを食べる。ずんぐりと丸い。体長3~10mmほど。

一生を終えた 動物の死がいは？

森の中で
小さなトガリネズミの
死がいを発見。
でも次に来ると
姿が消えていたよ。
だれが
片付けたのかな？

肉が食べられ、骨になっても(鳥の場合は羽も) それらを利用して虫がいる。コブスジコガネ、カツオブシムシの仲間にとってはごちそうなんだ。

骨を食う虫もいる

子育てに利用される

モシデムシ

とってもがんばって働くのがモシデムシの仲間。彼らは死がいの下にもぐり込んで動かして土の中に埋めるよ。そしてエサの肉団子を作って子づくりに利用する。親ムシは幼虫に口移しで餌を与えるんだ。

モシデムシの仲間
死がいの下の土を掘って丸ごと埋め、キレイな形の肉団子にしてエサにする。そのまわりに卵を産んで、幼虫が大きくなるまで口移しでエサをあげる。体長15mmほど。

ニクバエ
フンや死がいにウジ(幼虫)を産みつけるハエの仲間。よく見ると体にタデジマ模様がある。ウジはフンや死がいを食べて片付ける森の分解者。

お話を聞いた人
大原 昌宏さん
北海道大学総合博物館 副館長 教授。昆虫学、特に甲虫エンマムシ類の分類が専門。博物館の膨大な昆虫標本に囲まれて研究をしている。

新岡薫/エトブン社
北海道のイキモノをテーマに絵と文を描いているイラストレーター。トカゲと鳥とエゾシカが気になる。猫とキツネを見たら追いかける。クモはちょっとコワイ。好きなことは森と動物園と水族館の散歩。札幌出身。ブログ <http://etobunshainyozo.blogspot.com/>

ゴハンだ！
ほかの動物の
エサになる

キツネやカラスなどの動物がエサとして持って行った。

ハエが卵を産みに来る

ニクバエ

森の死がいは他の生き物にとってレストランや子育ての場。最初にやって来るのはニクバエの仲間。毛皮ではなく皮ふが出ている部分に卵を産むよ。

ウジがふえるとウジを食う虫が集まる

ニクバエの卵がかえるとウジ(ハエの幼虫)になる。彼らは消化液(食べ物を取り込むための液)を口から出してエサの肉を溶かしてから食べるんだ。大きなアゴで消化液と肉をかき混ぜて、溶かしてきた肉汁を吸って食べる。ボクらはおなかの中で消化するけど、ウジは口の外で先に溶かしてしまうんだね。数匹でかたまると力を合わせ、溶かしながら食べているよ。ウジが多くなると、エンマムシ、ハネカクシ、シデムシなどが、ウジを食べにやって来る。ウンコの場合といっしょだね。

ボクらの気がつかないところで、小さな虫たちが働いている！
自然界で動物のフンや死体は、昆虫やダニなどによって分解され、植物の養分として吸収されます。そして植物はまた動物のエサとなってひとめぐり。フンや死体を片付けて「森のそうじ屋」と呼ばれるシデムシ、フン虫、エンマムシは、栄養分を循環させる大切な役割を担っているのです。森を歩けばシカやキツネのフン、小動物の死体を見かけることがあるでしょう。汚い、怖いと思うかもしれないけれど、今度見つけたら勇気を出してじっくり返してみよう。森のそうじ屋さんたちが一生懸命働いている姿に出会えるはずですよ。
※動物の死体は病気を持っている場合があります。直接手で触らず、枝などを使って動かしてみよう。

宮本尚/きたネット
森好き、ヘンなイキモノ好きは、オホーツク海を眺めて育った子どもの頃から。最近はキノコのトリコです。北海道の森の歌を作りたいと思いつつ、なかなか時間がとれないのが悩みのタネ。今年こそ！
森づくりナビ★北海道 <http://kitanet-mori.com>

楽しくつきあうには、 相手を知らないで、ね

モリイクで4回にわたって連載していた「森のコワイ！あぶない？野山の安全安心ノート」が、持ち歩けるサイズの冊子になりました。

内容は、ヒグマやスズメバチによる事故にあわないための知識、エキノコックス感染の予防策、ダニ対策、かぶれる植物についてなど、自然の中での時間を安全に過ごすための基礎知識です。

この冊子はコープさっぽろ50周年にあたっての社会貢献活動として、森に関わる方にプレゼントしています。1月の「北海道の森づくり交流会」で参加者のみなさんにお披露目したら、まとまった知識が手軽に読める、持ち歩ける大きさが良いという声をたくさんいただきました。以来、いろんな方から、団体のメンバーに配りたい、施設に置きたいなど希望が届いています※。制作チーム、ニッコリ。

「森のコワイ！アブナイ？」の連載を



森のコワイ！アブナイ？ー野山の安全安心ノートー
※欲しい！持ってない！という方はあすもり事務局へ。
また、インターネットで電子ブック版をダウンロードして、自分でプリントすることもできるようになります。

はじめたのは理由があります。あすもりの活動も5年がすぎ、植樹祭や育樹祭、各地の組合員活動や、森づくりワークショップなどで、森を好きになって、もっと普段から森に出かけたいという声を多く聞くようになってきたのです。そこで、ちょっと心配になってきました。イベントなど専門的な知識を持ったリーダーがいる活動は、安全に配慮して企画され、開催中もスタッフが見守っているのが安心です。しかし、自分たちだけで森に行くときは、やはり基本的な安全のための知識が必要だなあ、早いうちにきちんとまとめてお伝えした方がいいな、と考えたのです。

森と楽しくつきあうには知識が必要です。例えばスズメバチ対策。普段は黒い服ばかり着ている私も、森に行くときは明るい色の服を着ます。札幌近郊の森でもスズメバチに会うことがあります。

そんな時はそっと後ずさり、静かに道を変えます。落ち着いてられるのは「スズメバチが人間を襲うのは、驚いたり、攻撃されたと感じたときだけ」と教えてもらったからなのです。

森だけでなく、私たちの暮らしはすべてと安全に楽しくつきあうにも知識が必要です。衣・食・住・エネルギー、目の前に大量に積まれた安いものを漠然と手にしているのではなく、それがどういうものを原料にして、どんな方法で作られて…なんてことは、モリイクを読んでいる方には釈迦に説法ですね。

そうそう、4月からは一般家庭でも自分の買う電気を選べる「電力自由化」がスタートします。値段で選ぶのではなく、その電気が何からつくられているのか、その企業の志はどうかなど、きちんと見て、できるだけ地産地消で、環境への負荷の少ないエネルギーを使っていきたいところです。✦



みやもと なお
宮本 尚
認定NPO法人北海道市民環境ネットワーク「きたネット」常務理事
オホーツク出身、東京での生活を経て、札幌市在住。コピーライター、心身障害児(者)の介護・マネジメントなどを経て、現在はきたネット理事のほか、「北海道エネルギーチェンジ100ネットワーク」代表、シンガー・ソングライター。

東日本大震災から5年目の3月11日が過ぎました。あの年と同じ金曜日の仕事場で14時46分を迎えました。あの日、札幌の事務所で揺れを感じて、これはとんでもない地震だと感じたその瞬間、津波が押し寄せる映像を呆然と見ていたあの時間、原発事故がどんどん進んでいったあの日々、大切な方、大切な暮らしを失った方たちの5年間を思います。あの日から人生が変わったという人が、まわりにもたくさんいます。私自身は東日本大震災関連で身近な人を失ったということはありませんでしたが、あの年、親族や恩人が次々と亡くなって、死を見つめ続けた一年でした。あの災害の悲しみを心に刻んで、目をそらさないこと、無関心にならないこと、できることをふやすこと、諦めないこと、そうつぶやいて、6年目の春がきます。

Re Report

第1回 コープの森 育樹祭

コープの森の森づくりは新しい段階に。
そう、植樹は森づくりの、最初の一步にすぎないのだから、植えた樹を育てることも、始めてみよう！



あつという間に 除去した草の山、また山。

2015年はコープさっぽろが生まれてから、ちょうど50周年。これに合わせて、コープの森づくりも新しいことを始めてみよう。

そんなわけで、新企画が始まりました。その名も「育樹祭」。樹を植えただけでは森は育たない。その後も下草刈りや除伐・間伐など、長期間にわたっての手助けが必要なのです。その手間と時間も皆さんと分かち合っこのコープの森。だから、育樹もみんなでやってみよう！

秋も深まってきた10月3日、当別町の道民の森神居尻地区には今回もたくさんの組合員さんが集まりました。Fの森の植樹地は、秋枯れ色の草に覆われ、植樹した木々も葉を落したり、紅葉したりして、ちょっと見た感じでは除去する草との区別が難しそう。そこで、除去する草を限定して、その特徴を講師であるNPO法人もりねつとの山本牧さんが説明し、いざ、除去開始。

初回の今回は、Fの森最初の植樹地(2013年植樹)が対象です。

はじめこそ植物の見分けに苦労していた参加者の皆さん、ススキやオオイトドリなど、大物を片っ端から引き抜いて、除去した草の大きな山がすぐにできあがりしました。除去した草の量を競うゲームを取り入れたことも原因にあったことでしょうか、何より参加者の皆さんが、自分たちが植えた木々をかわいがって、大切にしようという思いが表れたということではないでしょうか。作業が終わると植樹地はすっきり見通しが良くなっていました。

昼食を挟んで、午後にはみんなで森の不思議を探すピンゴゲームをしながら、ゆっくと秋の森の時間を楽しみました。

コープの森づくりは、まだまだ序盤。これからの森づくりも、みなさんのご協力をよろしくお願いいたします！



根っこの長さ1m10cmで優勝！

育樹を
楽しもう！

大きい根っこ、掘ったよ！

草を抜くだけなんて、つまらない！

森づくりとはいっても、除草作業を黙々とやるだけではちょっとしんどい。ということで今回取り入れたのが「どれだけ長い根っこを掘れるか競争」と「バス對抗抜いた草の量比べ」。対抗意識を燃やすことで楽しく(?)除草作業を進めました。中には1本のオオイトドリの根を延々と掘るグループも。こういう楽しみ方も、森づくりを続ける上で大切なことなのかもしれません。

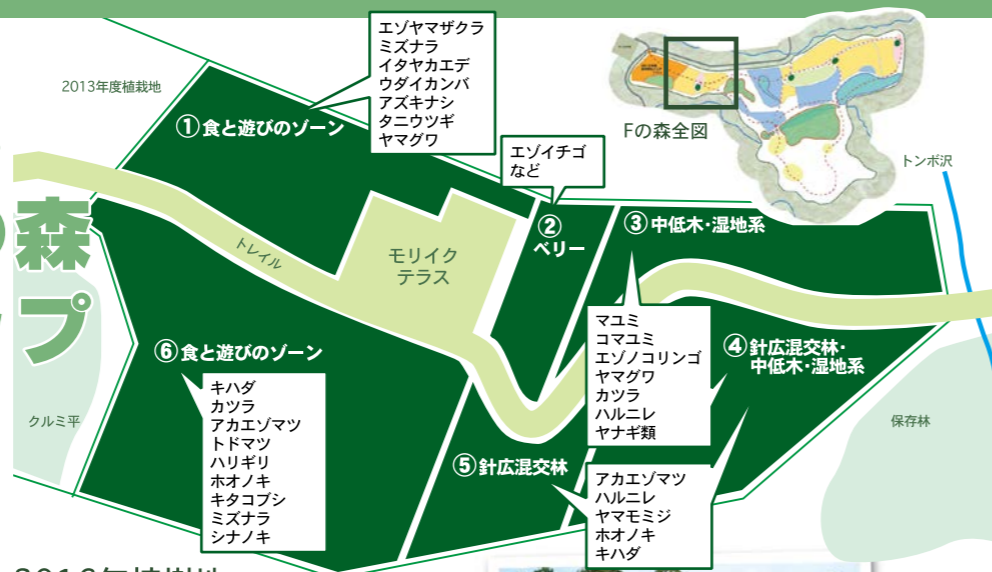
report

2015年度の森づくりワークショップ

4年目のFの森ワークショップ

写真提供 川口弘高(きたネット)

子どもや孫がこの森にいる姿が、
少しずつ見えてきました。



2016年植樹地

Fの森を皆さんの手で作りはじめて、もう4年目を迎えました。今年もこのワークショップでは様々な活動をして、2016年のコープの森植樹祭へ向けての道筋を作りました。

この4回で参加者はずいぶん成長しました。講師の山本さんが言うように、初年度には、歩けば縦に一列に並んでいた参加者が、今では横並びになって自分で目的地に向かい、目に付いた面白いものを探して、Fの森を楽しむようになりました。土地を見て、

周囲の森を見て、これからつくる森にイメージをふくらませることが難しくなるようになってきたのです。

そんな中、今年も雪折れした木に支えをつけたり、植えた木の生長を調べたり、未踏査のFゾーンを歩きまわったり、次にどんな森を作ればよいかを考えたりと、全4回にわたってワークショップを重ねました。2016年の植樹祭では、実や花を楽しめる低木も含めて1000本の木を植える予定です。お楽しみに！

event

第6回 北海道の森づくり交流会



6回目となる北海道の森づくり交流会。今年も北海道中からたくさんの森づくり団体が参加してくれました。

今回のゲストは、写真家・森の絵本作家でもあり、写真絵本のワークショップも各地で行っている小寺卓矢さん。小寺さんは2015年度、コープの森植樹祭・育樹祭やFの森ワークショップの写真撮影を担当しています。

さて、小寺さんの絵本「もりのいのち」(アリス社)の読み聞かせから始まった特別講演では、初の試みとして、各地の会場をつないでその場でひとつの写真絵本をつくるワークショップを行いました。これは、

各会場で、小寺さんの森の写真にひとつのせりふを載せ、それをつなげるというもの。いろんな人の感覚や思いが繋がって、ひとつの作品になってしまう。この面白さって何かとても大切なものを含んでいるような気にさせられました。このワークショップについて、小寺さんは「みんなでつながることは森と同じ。絵本づくりも森とつながる機会のない子どもたちを、自分自身をつなげる作業。これは森づくりと同じなんです」と、森づくりが繋がっていくということを話してくれました。

その後、ヒグマの研究を入口に森の専門家となった、Fの森ワークショップ講師の山本牧さん(もりねっと北海道)と小寺さんの森づくり対談。森のプロフェッショナルお二人が、どのように森とつきあっているのか、そして森と人がどう関わって森づくりを進めていくべきなのか、など、聞き応えたっぷりの対談となりました。

さらに各地の森づくりの報告や、森づくり団体の活動発表が行われ、会場では森づくり団体同士の交流も生まれたようです。きっとこの先も北海道の森づくりが大きく育つことでしょう。

Sponsors

2015年度 コープ未来の森づくり基金 ご協賛を頂いた企業・団体様

コープ未来の森づくり基金は、下記の企業・団体の皆様をはじめとする多くの方々を支えられて運営しています。

- | | | |
|--|---|--|
| ANAフーズ(株)
赤城乳業(株)札幌支店
旭トラスフーズ(株)
アサヒ飲料(株)北海道支社カルピス
アサヒ飲料(株)北海道支社
味の素冷凍食品(株)
味野実業(株)
イトランド(株)
イセ食品(株)
イトウ製菓(株)
(株)伊藤園北海道地区量販店
伊藤ハムデリー(株)
井村屋(株)関東支店札幌営業所
岩下食品(株)
岩塚製菓(株)北海道支店
(株)宇治園
内堀醸造(株)
エースコック(株)札幌支店
江崎グリコ(株)
エステー(株)札幌支店
エスビー食品(株)北海道ビジネスユニット
越後製菓(株)札幌営業所
NSファーマー・ジャパン(株)
エバラ食品工業株式会社
江別製粉(株)
王子ネピア(株)札幌支店
大塚食品(株)札幌支店
大塚製菓(株)札幌支店
(株)小川生菓
小川珈琲(株)
オタフクソー(株)
オハヨー乳業(株)
カゴメ(株)北海道支店
片岡物産(株)札幌営業所
加藤産業(株)北海道支社
(株)加藤美峰本舗
かどや製油(株)札幌営業所
(株)カネカシーフーズ
カネシメ食品(株)
カバヤ食品(株)札幌支店
カンロ(株)札幌支店
キーコーヒー(株)札幌支店
(株)菊水
(株)菊田食品
北日本フード(株)
キッコーマン食品(株)北海道支社
キュービー(株)札幌支店
キリンビールマーケティング(株)
キング醸造(株)
金印物産(株)札幌支店
(株)くらこんホールディングス
クランエース販売(株)北海道支社
(株)グリーンズ北見
(株)サクラバ
サッポロエシマコーヒー(株)
(株)札幌パティ
サッポロビール(株)
佐藤食品工業(株)北海道営業所
三幸製菓北海道営業所
サンスター(株)
サントリービバレッジサービス(株) | サントリーフーズ(株)
サンヨー食品販売(株)札幌営業所
シーズシハラ(株)
(株)シー・ファーム
(株)シマヤ 東京支店札幌事務所
ジャパンフリエー(株)
(株)食創
(株)白子札幌支店
(株)新進札幌支店
(株)真純北海道・東北営業部
新得物産(株)
(株)創味食品
(株)創健社
(株)ソラチ
大王製紙(株)H&P事業部
(株)ダイシユ
大日本除虫菊(株)仙台支店札幌営業所
(株)タカキベーカーリー
タカノフーズ(株)竹内養鶏場
竹本油脂(株)
竹山食品工業(株)
チロルチョコ(株)
テンプルマーク(株)札幌支店
(株)天塩
(株)テンヨ武田札幌出張所
(株)でん六札幌営業所
道栄紙業(株)
東海漬物(株)北海道営業所
東洋水産(株)北海道事業部北海道支店
富永貿易(株)北海道営業所
(株)永谷園札幌営業所
(株)なとり札幌営業所
(株)マルナカ
ニニコのり(株)札幌営業所
日糧製パン(株)
(株)ニチレイフーズ北海道支社
日進製菓(株)
日清オイログループ(株)札幌支店
日清スシコ(株)北海道支店
日清食品(株)北海道支店
日清フーズ(株)北海道営業部
日清食品冷凍(株)
日本製粉(株)札幌支店
(株)桃屋北海道営業部
日本食研(株)
日本生活協同組合連合会
日本製紙クレシア(株)北海道営業支社
日本ハムデリー(株)
ネスレ日本(株)北日本支社北海道支店
ノースカース(株)
ハイツ日本(株)
ハウスウェルネスフーズ(株)札幌支店
ハウス食品(株)札幌支店
(株)はくばく
はごろもフーズ(株)札幌営業所
(株)八重水産
ハナマルキ(株)
歯舞漁業協同組合
ハラタ製菓(株)
ひかり味噌株式会社
笹木醤油(株)
福山醸造(株)
富士物産(株) | フジッコ(株)札幌営業所
伏見蒲鉾(株)
(株)不二家北海道統括部
藤原製菓(株)
フタバ食品(株)北海道支店
ブルドックソー(株)札幌支店
(株)ブルボン北海道営業所
(有)プロセグループ夢民舎
(株)べつかい乳業興社
ベル食品(株)
ポールスタア
(有)北創アースシステム
(株)ホクリョウ
ホクレン
ホクレン農業協同組合連合会
ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)
北海道味の素(株)
北海道漁業協同組合連合会
北海道キリンビバレッジ(株)
北海道コカ・コーラボトリング(株)
(株)北海道サンジェルマン
(株)北海道水
北海道永乳業販売(株)
ポッカサッポロ北海道(株)
(株)ホクラン
ヤマキ(株)札幌支店
マリノフーズ(株)北海道事業所
マルカ食品(株)
マルコス(株)
(株)丸三北栄商会
マルダ味噌販売(株)札幌営業所
マルトモ(株)札幌支店
(株)マルナカ
丸永製菓(株)札幌営業所
マルハニチロ(株)
(株)マルハニチロ北日本
丸美食品工業(株)
(株)みずコーポレーション札幌営業所
三井農林(株)札幌営業所
(株)Mizkan北海道支店
三菱食品
明星食品(株)札幌営業所
(株)明治北海道支社
(株)桃屋北海道営業部
盛田(株)漬物・低温事業部
森永製菓(株)北海道統括支店
モンデリーズ・ジャパン(株)
やまう(株)
ヤマサ醤油(株)札幌支店
山下食品(株)
ヤマナカフーズ
ユウキ食品(株)札幌営業所
UCC上島珈琲(株)北海道支社
UHA味覚糖(株)
有楽製菓(株)
雪印メグミルク(株)
ユニチャーム(株)北海道支店
ライオン(株)
理研ビタミン(株)札幌支店
六甲パター(株)
(株)ロッテアイス北海道支店
ロッテ商事(株)北海道統括支店
(株)わかさ本舗 (五十音順) |
|--|---|--|

協賛企業に聞いてみた。
応援しています
コープの森づくり

#9

サッポロビール株式会社

http://www.sapporobeer.jp/area/hokkaido/

ビールづくりは農業なんです。それと水。森が土も水もつくる。だから森というのは原点ともいえるかもしれません。サッポロビールは今年(2016年)で140周年。北海道で生まれ、北海道に育てられてきました。だから、北海道の未来のために何が出来るかを常に根本に考えています。そこで、ビールの原点でもある森を未来につなぐために、イベントでの森の教室や、販売するビールや飲料でのキャンペーンを行っています。こうした活動から、親子で森のことを考え、話し合い、学びきっかけを作りたいと思っています。

私は道外から移住してきましたが、これほど暮らしの身近に森があり、広大な自然が残っているのは北海道の何よりの魅力であり、資源です。温暖化が進めばこの資源が減ってしまう。だからたくさんの人に森の役割を知ってほしい。今後は、今まで関心の無かった人にも知ってもらえるような取り組みを、コープ

さっぽろと一緒に広げていきたいと考えています。*

コープさっぽろ 北海道との協働プロジェクト

1箱につき1円が森づくりに活かされます!

北海道の森に乾杯! 缶 7月・9月に数量限定発売

話してくれたひと

サッポロビール株式会社 北海道本部 北岡 俊夫 さん

*ビール以外のお酒・飲料でも展開します

Present アンケート&プレゼント

「モリイクvol.11」いかがでしたでしょうか。今後の紙面づくりのために、アンケートにご協力をお願いします。

- Q1 モリイクを読んだ感想をお聞かせ下さい。 巻頭コラム(P2,3)
- Q2 面白かった記事・つまらなかった記事は 森づくりdeわたしをまもる(P4~7) 木づかい(P8) 大きな木の小さな物語(P9) 森のキモイ・クレイ(P10,11) 森林再生コラム(P12)
- Q3 森づくりの活動に参加したことがありますか?(はい/いいえ)
- Q4 コープ未来の森づくり基金の活動へのご意見があればお聞かせください。
- Q5 取り上げてほしい記事のテーマがありましたらお書き下さい。



PRESENT!

アンケートに回答いただいた方から抽選で2名様に、木工の町東川の組み木の箸置き(2つ1組)をプレゼントします。

応募方法

アンケートの回答を記入の上、住所・氏名・年齢・連絡先を明記の上、はがき、FAX、メールにてお送り下さい。プレゼントの当選は発送をもって替えさせていただきます。

応募締切 5/31(火) 当日消印有効

コープさっぽろ基金事務局
〒063-8501 札幌市西区寒券11条5丁目10番1号
FAX: 011-671-5743
メール: csapmori@todock.jp

